

Ⅲ 今年度の研究実践

サポートブックグループ

サポートブック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	134
～エクセルを使ったサポートブックのフォーム作りとその活用～	

サポートブック

～エクセルを使ったサポートブックのフォーム作りとその活用～

下野令子 清水雅恵

研究協力者：九良賀野佳代子（サポートブック制作教室 本校保護者）
吉野祐子（サポートブック制作教室 本校保護者）

1. 昨年度までの研究の流れ

サポートブックグループでは、平成15年度よりサポートブックに記載する内容を検討し、実際に高等部の生徒のサポートブックを作成して産業現場等における実習（以下現場実習と表記する）を中心に活用してきた。活用した後はアンケートを行い、その問題点を洗い出して、よりよいサポートブックの作成に活かしてきた。しかし、サポートブックは必ずしも作成すべきものでないため、必要性に駆られない限りはなかなか作成しようと考えたことはないと思われた。

そこでサポートブックをより簡単に短時間でできないかと考えて、平成18年度からはエクセルのリストによるサポートブックのフォームを作ることに取り組んだ。フォームでは記載したい内容の項目ごとに選択肢を設けてその中から選んだり、選択肢の文章を作り変えたりすることでサポートブックが作成できるようにした。さらに、校内ワークショップを行い、そのアンケートの結果から「フォームがあれば便利である」という結果が得られた。しかし同時に、エクセルの操作自体が難しいことや選択肢について改良の必要性があるという問題点が出てきた。また、2月にはフォームを本校のホームページに掲載し、アクセスすればダウンロードできるようにした。

2. 今年度の研究の流れ

昨年度の反省を受けて、今年度はサポートブックのフォームの改良から始めた。そして、そのフォームを使って本校の「特別支援教育研修講座」でワークショップを開催した。さらに、本校の高等部1年生の現場実習にあわせてサポートブックを作成し、実習先の支援者に活用してもらい、アンケートをとった。

（1）サポートブックのフォームの改良

昨年度の課題として出てきたエクセルのドロップダウンリストを使ったフォームの欠点は、おもに次の3つである。

- ・ リストの文字が小さく見にくい
- ・ ドロップダウンリストにより入力された文章を変更することが容易ではない
- ・ 1つの項目に複数の選択肢を入力することができない

そこで今年度はリスト方式を改めて、新たにVBAによるボタン方式で作成することにした。その結果、操作方法が「入力したい文章が決まったら該当のコピーボタンをクリックして、セルのところでペーストボタンを押す」という簡単なものになった。

さらに、リスト方式よりも文字が大きくて見やすく、選択した後でも文章の訂正が可能になった。また、複数選択されることが予想される項目に関してはセルを2つ設けた。これによって、3つのおもな欠点に関しては改善ができたと考えられた。

（2）ワークショップ開催

本校では、数年前から県下の特別支援学校や特別支援学級の教師及び児童生徒の保護者

を対象に「特別支援教育研修講座」を開いている。今年度も、夏季休業中に7講座が開催された。サポートブックグループでも、8月に「エクセルで作るサポートブック」という講座名でワークショップを行った。

①ワークショップの概要

ワークショップの概要は、次のとおりである。

日 時： 平成19年8月8日 9:30~12:00

場 所： 金沢大学教育学部附属特別支援学校

参加者： 4名 特別支援学級教諭（小学校） 1名
 特別支援学校教諭（肢体不自由） 2名
 特別支援学校教諭（知的障害） 1名

内 容：エクセルリストを使ったサポートブックのフォームで自分の担当している児童生徒のサポートブックを作成する

持ち物：ノートパソコン

②参加者（作成者）へのアンケート

アンケートの様式は平成15年度の研究開始以来、当時富山大学教育学部の武蔵博文助教授（現香川大学教育学部教授）が作成されたものを母体としている。その年の研究テーマにそった内容にあわせて変更を加えてきたが、5段階評価の質問項目については変えていない。

今回のアンケートの様式は、資料1のとおりである。4名の参加者に、サポートブックを作成してもらった直後に記入してもらった。（以下、本文中の□で囲まれた部分は項目を、下線の部分は小項目をあらわす）

③アンケートの結果と考察

設問2「使った項目」のアンケート結果（表2参照）では、学部や障害が異なると必要な項目に違いが出てきた。小学部の児童に(14)作業能力は必要なく、肢体不自由の生徒には(7)パニックはほとんど無いと考えられた。感想にもあったが、一人一人のニーズにあった項目を作成者が加えていく柔軟な姿勢が必要である。

設問3の「付け加えたい項目」では、

- ・身体面について（介助の仕方）
 - ・車いすの操作について
 - ・身体状況について
- の3点が記されていた。

資料1 作成者へのアンケート

サポートブックについてのアンケート（作成者用）

- 作成した児童生徒について教えてください
 (1)学部： 小学部 中学部 高等部
 (2)障害： 知的障害 自閉性障害 ダウン症 その他（ ）
- どの項目のシートを使われましたか？（使ったシートはすべて○をつけてください。）
 (1)表紙 (2)個人ファイル (3)健康 (4)服薬
 (5)障害からくる本人の特性 (6)心理的な安定 (7)パニックのときの対処の仕方
 (8)学力 (9)日常生活における理解（学力） (10)コミュニケーション1
 (11)コミュニケーション2 (12)食事 (13)身辺自立 (14)作業能力
 (15)社会性 (16)買い物（社会性） (17)外出・移動（社会性）
 (18)余暇利用 (19)入浴 (20)宿泊
- 作成した児童生徒について、付け加えたい項目がありましたら、ご記入下さい。
- フォームを使った方で、付け加えたい文章がありましたら、ご記入下さい。
- サポートブック作りは楽しかったですか？
 (1)楽しかった (2)少し楽しかった (3)どちらともいえない (4)あまり楽しくなかった
 (5)楽しくなかった
- サポートブック作りは難しかったですか？
 (1)難しかった (2)少し難しかった (3)どちらともいえない (4)あまり難しくなかった
 (5)難しくなかった
- サポートブックは希望を満たすことができましたか？
 (1)できた (2)少しできた (3)どちらともいえない (4)あまりできなかった
 (5)できなかった
- サポートブックを使ってみたいと思いますか？
 (1)思う (2)少し思う (3)どちらともいえない (4)あまり思わない (5)思わない
- 思っていたとおりのサポートブックにできあがり了吗？
 (1)できた (2)おおよそできた (3)どちらともいえない (4)あまりできなかった
 (5)できなかった
- できあがったサポートブックはざっくり何点ですか？（ ）点
- その他、サポートブックについてご意見・ご感想等があればお聞かせください

表1 アンケート結果（設問1. 作成した児童生徒について）

	知的障害	自閉性障害	ダウン症	その他	計
小学部	0	1	0	0	1
中学部	0	0	0	0	0
高等部	0	1	0	2（身体障害者）	3
計	0	2	0	2	4

設問4の「項目の中に付け加えたい文章」では、「利き手（右利きか左利きか）があるとよい」という意見があった。

設問5から設問9のアンケート結果に関しては、各質問項目を5段階評価としてそれぞれの平均を出した（表3参照）。作成人数が4名と少なかったことから点数化については信頼性に欠ける点があるかもしれない。しかし、設問6の「作成は難しかった」のみ3.25ポイントなのに比べて、設問5、7、8、9では4ポイント台と肯定的に捉えられていることが分かった。特に設問8の「使ってみようと思うか」の回答が4.75と高かったのは嬉しいことである。

設問6に関しては、「家での生活をもっと把握していなければと感じた」という意見や「その子のことを伝えるための丁度良い表現を考えるのが難しかった」という意見が記されていた。また設問8に関しては、「交流先や校内の先生方に利用されると良いと感じた」と記されていた。

設問10の「できあがったサポートブックの点数は何点か」では、平均をとると、80点と高い点数がたった。

設問11の意見や感想は次のとおりである。

- ・入力してみて(6)心理的な安定と(7)パニック時の対応の仕方に重なる記述が多く、もう少し整理してみたい
- ・不安定とパニックの境目が難しい。
- ・フォームに同じ文章があったように思う。
- ・担任は分かっているつもりでも、他の人が見てもその子が理解できなければいけないという点で気をつけなくてはと思った。そうすることでその子とのかかわりも豊かになると思う。
- ・その子の様子が分かる写真などを入れていきたいと思う。
- ・今回は本校でも作成しようという動きに伴い勉強にきた。肢体不自由の生徒のニーズにあったものを考えていこうと思う。とても参考になった。
- ・また学校でも改良してぜひ使ってみてみたいと思う。

今回のワークショップの参加者は、なるべくすべての項目に記入しようとする姿勢で取り組んでいたように思われた。例えば、(6)心理的な安定で「パニックがある」を選んだ

表2 アンケート結果（設問2. 使った項目）

	肢体不自由	自閉性障害	計
(1)表紙	2	2	4
(2)個人ファイル	1	2	3
(3)健康	2	2	4
(4)服薬	2	2	4
(5)障害からくる本人の特性	1	2	3
(6)心理的な安定	1	2	3
(7)パニックや困ったときの対処の仕方	0	2	2
(8)学力	0	2	2
(9)日常生活における理解（学力）	2	2	4
(10)コミュニケーション1	2	2	4
(11)コミュニケーション2	1	2	3
(12)食事	2	2	4
(13)身辺自立	2	2	4
(14)作業能力	1	1	2
(15)社会性	0	2	2
(16)外出・移動（社会性）	2	2	4
(17)買い物（社会性）	1	2	3
(18)余暇利用	1	1	2
(19)入浴	1	1	2
(20)宿泊	1	1	2
(21)その他（自ら作成した項目）	0	0	0

表3 アンケート結果（設問5～9）

質問項目	平均点
Q5)作成は楽しかったか	4.5
Q6)作成は難しかったか	3.25
Q7)希望を満たすことができたか	4.5
Q8)使ってみようと思うか	4.75
Q9)思っていた通りの出来か	4

場合には、(7)パニック時の対応の仕方」の項目でより詳しいことを記入できるようにしたつもりである。パニックがなければ、その項目は記入する必要はない。それが、設問11で「記述が重なる」という意見にあらわれたと考えられる。

④ワークショップを開催した感想

ワークショップでは、参加者のうちの2名があらかじめフォームをダウンロードしていたので、実際に利用されていることがわかりよかった。しかし、フォームの説明不足な点や欠点が明らかになった。実際に作業を進めていく時には、ボタンの使い方などちょっと操作に戸惑ったようだった。また、小項目が重なっている部分や同じ内容の記述があると指摘された箇所に関しては、もう少し表現を吟味する必要性を感じた。

さらに、サポートブックの作り方は記載されているが、その意義や自分たちが作成の際に大切にしてきたことなどを伝えるページが不足していることがわかった。また、最終段階では、保護者に加筆や訂正を依頼することや、個人情報の保護のため支援者への開示について同意を得ることが必要であることも載せたいと考えた。

担当している生徒については、あれもこれも書きたいと思いついついたくさんの情報を入れてしまいがちである。しかし、今回他校の先生が作った面識のない児童生徒のサポートブックを読ませてもらうと、その子のおおよそのプロフィールはつかめるものであるということがわかった。情報量が多い記述式でなくとも、このフォームで十分サポートブックの目的は果たせると実感できた。

⑤ワークショップをうけてのフォームの見直し

ワークショップで実際に試行錯誤しながら作成しているところを見ることができたことで、フォームを作った側にとっては当たり前のことでも、初めて使う人にとっては使いにくいこともあるのが実感できた。そこで、よりスムーズに入力できるように、フォームの「使い方」のシートに次のような内容を加えた。

- ・入力された内容に付け加えたり変更したりできる
- ・入力を取り消すときにはデリートボタンを使用する
- ・欄に文字が収まらないときには、ポイントを小さくする

また、フォームのいちばん最初に「はじめに」というシートを新たに加えて、サポートブックの意義など、作成する際に大切にしたいことをまとめた。

(3) サポートブック作り

本校では、中学部3年時の職場体験を経て、高等部1年の10月に現場実習を実施している。それに合わせて1年生担任がサポートブックを作成した。そして、ワークショップで行った「サポートブックについてのアンケート(作成者用)」に記入して考察した。

表4 アンケート結果(設問1. 作成した生徒について)

	知的障害	自閉性障害	ダウン症	その他	計
高等部	2	7	0	0	9

表5 アンケート結果(設問2. 使った項目)

※ の福祉作業所は、移行支援事業の視点で行ったもの

項目	実習先	福祉作業所 (4名)	福祉作業所※ (2名)	一般企業 (3名)	計
(1) 表紙		4	2	3	9
(2) 個人ファイル		4	2	3	9
(3) 健康		4	2	3	9
(4) 服薬		3	0	0	3
(5) 障害からくる本人の特性		3	2	0	5
(6) 心理的な安定		4	2	0	6
(7) パニックや困ったときの対処の仕方		0	0	0	0
(8) 学力		0	2	3	5
(9) 日常生活における理解(学力)		4	0	0	4
(10) コミュニケーション1		4	2	3	9
(11) コミュニケーション2		4	2	3	9
(12) 食事		4	2	0	6
(13) 身辺自立		4	2	0	6
(14) 作業能力		4	2	3	9
(15) 社会性		0	2	3	5
(16) 外出・移動(社会性)		4	2	0	6
(17) 買い物(社会性)		2	1	0	3
(18) 余暇利用		4	2	3	9
(19) 入浴		0	0	0	0
(20) 宿泊		0	0	0	0
(21) その他(自ら作成した項目)		2	0	3	5

① アンケートの結果

表5の設問2「使った項目」では、実習先別の方が障害別よりも使った項目にはっきりとした差があらわれた。

設問3の付け加えたい項目では、次の7点が記されていた。

- ・(5)障害からくる本人の特性が書きにくい生徒に関しては、(21)として本人の様子もしくは本人についての項目を作った
- ・保護者の作ったサポートブックの中に知っておいて欲しいこととして他傷行為などを記したものがあつた、同じように(21)としてこの項目を作った
- ・服薬の習慣がない生徒には(3)健康に服薬の小項目を入れて、(4)服薬を記入しなかった
- ・(15)社会性に携帯電話や、買い物も付け加えて(16)外出・移動や(17)買い物は省いた
- ・(6)心理的な安定に対応の仕方を付け加えた
- ・(12)食事に食べ方(傾向)を付け加えた
- ・どこかの項目に、資格を付け加えると良い

設問4の「項目の中に付け加えたい文章」では、実際には自閉症の生徒に関してはこだわりなどが個人的で一人一人に応じて文章を加えることはあつたが、項目に付け加えられるような一般的なものはなかつた。

設問5、6、7、8、9では、各質問項目を5段階評価として、それぞれの平均を出した(表6参照)。設問6に関しては「福祉作業所で実習した生徒については比較的作成が難しかった」「福祉作業所内での移行就労事業の視点で実習した生徒についてはとても書きやすかつた」

「一般企業で実習した生徒については書きやすかつた」と記されていた。

設問10の「できあがつたサポートブックの点数は何点か」では、平均が73.8点で、そのうち最高点は80点、最低点は65点であつた。

設問11の意見や感想は次の通りである。

- ・保護者が作成したサポートブックを持っている生徒が9人中4人いた。
- ・記述式に比べるとセルに入る字数が少なくて細かい部分は書けないが、前回のリストより手軽に手直しがきいて良い。
- ・2名については、実習の際に付き添ってみると気がついたことや、学校ではある程度適応できていることが認識できたので、後日内容に加筆した。
- ・自閉性障害の生徒であるが、精神的に不安定な時よりも機嫌よさそうに笑っている時の方が他傷行為の出ることもあつて、自閉症の行動の特性の所に該当する項目がなく難かつた。
- ・パニックかどうかの判断が難しい生徒だったので、心理的な安定を充実させた。

② アンケートの考察

表5の網掛けの部分は、実習先によってその項目を使うか使わないかがはっきりと分かれた部分である。(9)日常生活における理解はもともと(8)学力について作成の難しい生徒のために設けた項目である。同様に(15)社会性について作成が難しい生徒に対しては、(16)外出・移動や(17)買物の項目を設けた。(13)身辺自立や(12)食事は、一般就労を希望している生徒にとっては特に必要はないと思われたが、福祉就労を考えている生徒にとっては必要であると思われた。どこで実習をするかによって使う項目をあらかじめ分けて

表6 アンケート結果(設問5~9)

質 問 項 目	平均点
Q5) 作成は楽しかつたか	3.6
Q6) 作成は難しかつたか	2.7
Q7) 希望を満たすことができたか	4.2
Q8) 使ってみようと思うか	5.0
Q9) 思っていた通りの出来か	4.1

おいた方が、初めて作る人にもわかりやすいように思われた。

1年生のサポートブックを作成したところ、実習先によって作成しやすかったりしにくかったりした。

作成しにくかったのは福祉作業所で実習した生徒達で、一人一人の課題や支援の仕方が違うので補足の欄の記述が多くなり時間がかかったと思われる。

作成しやすかったのが、今回は福祉作業所で実習を行ったが将来は一般企業で就労する可能性のある生徒達である。福祉作業所ということで支援者に障害のある人への理解ができていたり、どの項目も網羅して書くことができた。

その中間が一般企業で実習した生徒達である。支援者にわかりやすいような言葉を使ったり、おもに仕事と休憩時間に必要と思われる項目や情報を精選する必要があったためと考えられる。例えば、**(5)障害からくる本人の特性**の項目もなじみがないように思われたので、**本人の様子**や**本人について**等の表現に改めた。

(4) 現場実習での活用

① 支援者へのアンケート

支援者へのアンケートは、現場実習先のその生徒の支援者に記入をお願いして、実習終了後に回収した。アンケートの様式は資料2のとおりである。

② アンケートの結果

有効回答数は7件で、各質問項目は5段階評価とした。設問1及び設問3から設問8のアンケートの結果は次のとおりである。設問2の回答結果は表7のとおりである。

設問9に関する意見は次のとおりである。

- ・初めて顔を合わす時は、現状のサポートブックで十分だと思う。後は担任の話で聞くことができれば十分である。
- ・作業面で、苦手な作業内容や活動について知りたい。
- ・他人（職員、友だち、家族等）との決まった言葉のやりとりや、コミュニケーションの方法について知りたい。（例：本人から「〇〇」と言われたら「△△」と答えればよい等）
- 問10に関する意見は次のとおりである。
- ・とても見やすく良かった。

資料2 支援者へのアンケート

サポートブックについてのアンケート（支援者用）	
1. サポートブックは役に立ちましたか？	(1)役に立った (2)少し役に立った (3)どちらともいえない (4)あまり役に立たなかった (5)役に立たなかった
2. どの項目・情報が役に立ちましたか？（複数回答）	(1) 個人ファイル (2) 健康 (3) 服薬 (4) 障害からくる本人の特性 (5) 心理的な安定 (6) パニックのときの対処の仕方 (7) 学力 (8) 日常生活における理解（学力） (9) コミュニケーション1 (10) コミュニケーション2 (11) 食事 (12) 身辺自立 (13) 作業能力 (14) 社会性 (15) 買い物（社会性） (16) 外出・移動（社会性） (17) 余暇利用 (18) 入浴 (19) 宿泊 (20) 本人について
3. サポートブックの内容は生徒の実態と一致していましたか？	(1)一致していた (2)おおよそ一致していた (3)どちらともいえない (4)あまり一致していなかった (5)一致していなかった
4. サポートブックの内容は具体的でわかりやすかったですか？	(1)わかりやすかった (2)ややわかりやすかった (3)どちらともいえない (4)あまりわかりやすくなかった (5)わかりやすくなかった
5. サポートブックは読みやすかったですか？	(1)読みやすかった (2)少し読みやすかった (3)どちらともいえない (4)あまり読みやすくなかった (5)読みやすくなかった
6. サポートブックの情報はどうですか？	(1)ちょうど良い (2)おおよそ良い (3)どちらともいえない (4)やや足りない (5)足りない
7. サポートブックにより、生徒への理解が深まりましたか？	(1)深まった (2)少し深まった (3)どちらともいえない (4)あまり深まらなかった (5)深まらなかった
8. 生徒とかわる時に、サポートブックは必要だと思いますか？	(1)思う (2)少し思う (3)どちらともいえない (4)あまり思わない (5)思わない
9. サポートブックに載っていた情報以外で知りたかった情報はありますか？（自由記述）	
10. その他、サポートブックについてご意見をお聞かせください（自由記述）	

表7 支援者へのアンケート結果

質問項目	平均
問1 サポートブックは役に立ちましたか？	4.43
問2 どの項目・情報が役に立ちましたか？	以下に詳細
問3 サポートブックの内容は生徒の実態と一致していましたか？	4.29
問4 サポートブックの内容は具体的でわかりやすかったですか？	4.86
問5 サポートブックは読みやすかったですか？	4.86
問6 サポートブックの情報はどうですか？（情報量に関して）	4.14
問7 サポートブックにより、生徒への理解が深まりましたか？	4.14
問8 生徒とかわる時に、サポートブックは必要だと思いますか？	4.43
問9 サポートブックに載っていた情報以外で知りたかった情報はありますか？	以下に詳細
問10 その他、サポートブックについてご意見をお聞かせください。	以下に詳細

- ・サポートブックの大きさもちょうど良く、文字内容ともに明確で読みやすい、理解しやすい内容だった。
- ・初対面の時は、前もって本人の情報があると声もかけやすく、実習内容により近づいた働きかけができるので助かった。

③ アンケートの考察

5段階評価で回答する質問に関しては、いずれも4点台と高かった。特に「内容が具体的で分かりやすかったか」「読みやすかったか」で高く、支援者にとっては今回のフォームでも十分にサポートブックの目的が果たせていると考えられた。

また、設問2の「どの項目が役に立ったか」では、(4)障害からくる本人の特性と同じく(20)本人の様子、(5)心理的な安定、(7)学力と同じく(8)日常生活における理解、(9,10)コミュニケーション、(12)身辺自立、(13)作業能力が高く、(3)服薬、(11)食事、(14)社会性、(15)外出・移動が低かった。現場実習であることから、(13)作業能力がよく読まれるのは当然のことだと思われた。

一般企業で実習を行った生徒については、本人やその能力に関する基本的なこととして(7)学力や(20)本人の様子、(5)心理的な安定や、(9,10)コミュニケーションなどの項目が特に役に立ったようである。(14)社会性に関しては思っていたよりも低かったが、通勤などの際に特別困ることがなかったり、緊急な連絡することがなかったりしたので必要がなかったと思われる。

福祉就労で実習した生徒も同様に、(4)障害から来る本人の特性や(5)心理的な安定、(8)日常生活における理解、(9,10)コミュニケーションが高いが、生活面に課題のある生徒が少なくないことから(12)身辺自立も高かった。(3)服薬は、薬を昼間に飲ませる生徒が少なかったことがあって低かった。また、福祉就労先には担任がジョブコーチに入って(11)食事の介助などに携わったこともあって、この項目も低かった。福祉作業所では散歩などの機会もあり(15)外出・移動の項目を入れたが、実習中は機会がなかったため必要性が低かった。

資料3 サポートブックフォーム

3. 今年度の成果

(1) フォームの完成

改良を重ねて完成したフォームは資料3のとおりである。誰にでも使いやすいフォームを作りたいという思いはあったが、なかなか難しいということも実感した。しかし、初めてサポートブックを作る方にとって

項目	回答数
(1) 個人ファイル	3 / 7
(2) 健康	3 / 7
(3) 服薬	0 / 3
(4) 障害からくる本人の特性	5 / 6
(5) 心理的な安定	6 / 6
(6) パニックや困ったときの対処の仕方	0 / 0
(7) 学力	2 / 3
(8) 日常生活における理解	4 / 4
(9) コミュニケーション1	7 / 7
(10) コミュニケーション2	5 / 7
(11) 食事	2 / 5
(12) 身辺自立	5 / 6
(13) 作業能力	5 / 7
(14) 社会性	1 / 3
(15) 外出・移動 (社会性)	1 / 6
(16) 買い物 (社会性)	1 / 3
(17) 余暇利用	3 / 7
(18) 入浴	0 / 0
(19) 宿泊	0 / 0
(20) 本人についての様子	2 / 2

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26

は、昨年度のフォームよりも作りやすいものへと改良することができた。

興味のある方は、本校のホームページからダウンロードできるので、使っていただければ幸いです。

(<http://www.kanazawa-u-sh.ed.jp/index.html>→ご案内→サポートブック)

(2) 本校での汎化

サポートブックグループのこれまでの弱点であった校内における汎化については、今年度ようやくその足がかりを作ることができた。高等部では、現場実習の際に「現場実習生について」という生徒の実態表(資料4参照)を作成しているが、これとサポートブックをリンクさせたのである。これまでは、「現場実習生について」とサポートブックを別々に作成してきたが、サポートブックに関してはサポートブックグループに所属している教員だけが作成するのみであった。「現場実習生について」をサポートブックの一部とリンクさせることで、来年度からはもっと気軽にサポートブックを作れるのではないかと考えている。

資料4 現場実習生について (左: 福祉作業所向け、右: 一般企業向け)

現場実習生について			
取扱い注意 実習終了後ご返却ください		金沢大学教育学部附属特別支援学校 作成日:平成19年12月17日 作成者氏名:金沢 太郎	
氏名(姓・名)	所属	住所	金沢市東港六町2-10
学年・性別	3年・女	連絡先	076-263-5551
行動の特性		コミュニケーション	
性別		理解度	
行動の特徴		表出度	
閉鎖行動		要求の仕方	
<補足>		拒否の仕方	
身辺自立		日常生活における理解	
食事		ことば	
<補足>		<補足>	
排棄		数の理解	
<補足>		<補足>	
衣服の着脱		マッチング	
<補足>		時間や作業の経過	
健康		作業	
健康上の配慮事項		経験した作業学習	1年
<補足>			2年
体力			3年
<補足>		作業内容の理解	
聴覚		作業の持続性	
服装の時間		<補足>	
心理的な安定		作業の技術	
心理的な安定性		<補足>	
不安定になる場面		社会性	
<補足>		外出について	
対応の仕方		移動	
<補足>		場での服装への配慮	
その他特記事項		実習先に提出することに同意します。	
		平成19年 月 日 保護者氏名	

現場実習生について			
取扱い注意 実習終了後ご返却ください		金沢大学教育学部附属特別支援学校 作成日:平成19年12月17日 作成者氏名:金沢 太郎	
氏名(姓・名)	所属	住所	金沢市東港六町2-10
学年・性別	3年・女	連絡先	076-263-5551
行動の特性		社会性	
性別		公共交通機関の利用	
行動の特徴		電話の利用	
<補足>		<補足>	
コミュニケーション		作業	
理解度		経験した作業学習	1年
<補足>			2年
表出度			3年
<補足>		作業内容の理解	
挨拶		<補足>	
対人関係		作業の持続性	
		<補足>	
学力		作業の技術	
読み書き		<補足>	
<補足>		質問・報告	
計算		<補足>	
<補足>		作業の正確さ	
数の概念		作業への関心・意欲	
時間		柔軟性	
健康		作業	
健康上の配慮事項		作業量	
<補足>		安全への配慮	
体力		衛生管理	
<補足>		服装:身だしなみ	
聴覚		作業量	
服装の時間		時間の遵守	
		協調性	
その他特記事項		実習先に提出することに同意します。	
		平成19年 月 日 保護者氏名	